

第5次
富士宮市地球温暖化対策実行計画
(事務事業編)

令和6年度結果報告書

令和7年11月

富士宮市 環境企画課 環境エネルギー室

1 計画の概要

(1) 計画期間

実行計画の期間：2020（令和2）年度～2030（令和12）年度

本計画の期間は、2020（令和2）年度から2030（令和12）年度までの11年間としています。本計画の策定に当たっては、基準年度を2013（平成25）年度として削減目標を定めます。

なお、社会情勢の変化、法改正等により、必要に応じ見直しを行います。

(2) 温室効果ガス排出削減目標

削減目標：2030（令和12）年度までに2013（平成25）年度比で57.7%削減する

分野別排出量の削減目標を、次のとおり設定します。

（単位：t-CO₂）

排出起源		基準年度実績 2013(平成25)年度	2030(令和12)年度目標	
電気の使用		16,445	電力使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約51%削減します。	8,058
燃料の使用	都市ガス	3,248	燃料使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約51%削減します。	1,592
	LPガス			
	A重油			
	灯油			
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)	426	公用車使用による燃料(ガソリン及び軽油)使用量の削減により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約35%削減します。	277
公用車燃料				
プラスチックごみの燃焼		24,534	プラスチックごみの焼却量の削減により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約70%削減します。	7,800
その他 ・自動車(エアコン、走行) ・下水、し尿の処理		1,973 (平成25年度値が不明のため、平成26年度実績値を使用)	可能な限り削減に努めますが、数値目標は定めません。	1,973

(3) 計画の対象物質

本計画では、温対法第2条第3項が対象としている下記の7種類の温室効果ガスを対象とします。

名称	概要	地球温暖化係数 (温室効果)
二酸化炭素 (CO ₂)	主に石油や石炭などの化石燃料の燃焼により排出されます。エネルギー消費を伴う日々の生活と密接に関係しています。	1
メタン(CH ₄)	水田や家畜の腸内、廃棄物最終処分場における有機物の嫌気性発酵等において発生します。	28
一酸化二窒素 (N ₂ O)	化石燃料や一般廃棄物の燃焼、農用地の土壌や家畜排泄物等から発生します。	265
ハイドロフルオロ カーボン類(HFCs)	冷凍機器、空調機器の冷媒や断熱材等の発泡剤等に使用します。オゾン層を破壊しませんが、強い温室効果があります。	4~12, 400 【1,300(HFC-134a)】
パーフルオロ カーボン(PFCs)	主に半導体の製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
六ふっ化硫黄 (SF ₆)	主に電気絶縁ガスや半導体製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
三ふっ化窒素 (NF ₃)	半導体製造でのドライエッチングやこれらの製造装置のクリーニングに使用。	—

2 温室効果ガス排出状況

(1) 種類別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)

温室効果ガス の種類	年度		
	令和5年度	令和6年度	前年度比
二酸化炭素(CO ₂)	26,789	23,067	13.9%削減
メタン(CH ₄)	425	434	2.1%増加
一酸化二窒素(N ₂ O)	1,004	950	5.4%削減
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	3	3	—
パーフルオロカーボン(PFCs)	—	—	—
六ふっ化硫黄(SF ₆)	—	—	—
三ふっ化窒素(NF ₃)	—	—	—
合計	28,222	24,455	13.3%削減

※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

(2) 温室効果ガス排出量とその推移

(単位：t-CO₂)

排出起源		年度	平成25年度 (基準年度)	令和5年度	令和6年度	基準年度比	前年度比	令和12年度 (目標値)
電気の使用			16,445	14,072	14,745	-10.3%	4.8%	8,058
燃料の使用	都市ガス		3,248	2,207	2,175	-33.0%	-1.4%	1,592
	LPガス							
	A重油							
	灯油							
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)							
	公用車燃料	426						
プラスチックごみの燃焼			24,534	10,660	6,256	-74.5%	-41.3%	7,800
その他 ・自動車(走行・エアコン) ・下水、し尿の処理			1,973	906	929	-52.9%	2.5%	1,973
合計			46,626	28,222	24,455	-47.6%	-13.3%	19,700

※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

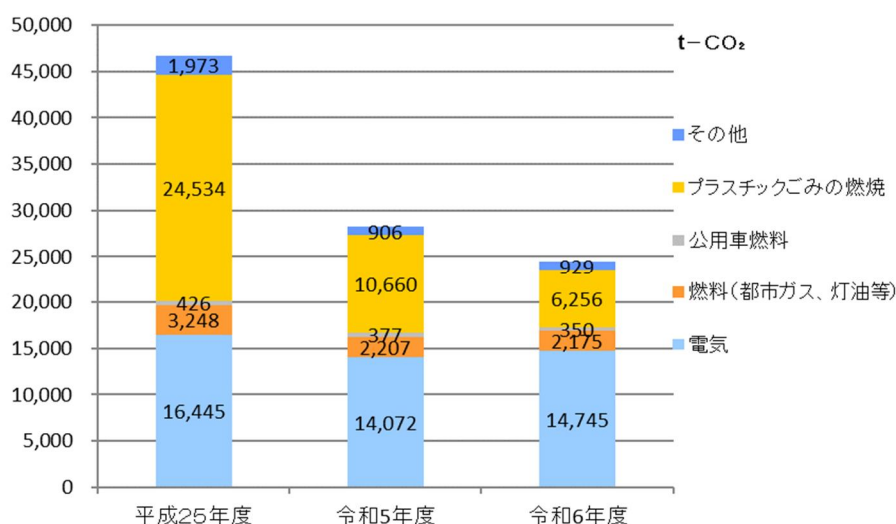
電気の使用については、夏の猛暑の影響で空調の使用が増加したこと等により、前年度から温室効果ガス排出量が増加しました。

燃料の使用については、塗装工事の影響で市民プールが一時閉館し、A重油の使用量が減少したこと、市民文化会館のリニューアル工事に伴い、令和5年度末で都市ガスの利用を中止したこと等により、前年度と比較して温室効果ガス排出量が減少しました。

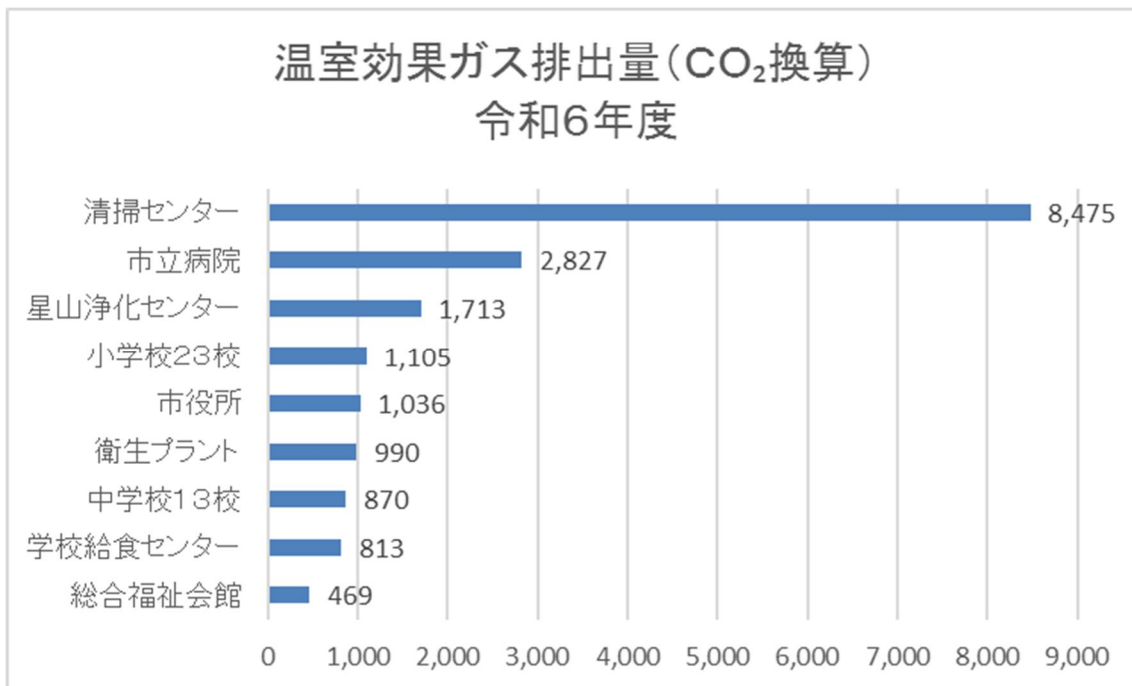
公用車燃料については、走行距離が減少したことや電動車の利用が増加したこと等により、ガソリンの使用量が減少し、前年度と比較し温室効果ガス排出量が減少しました。

プラスチックごみの燃焼については、令和6年度からプラスチックごみの分別収集を開始したことで、清掃センターにおけるプラスチックごみの焼却量が減少したため、前年度より温室効果ガス排出量が減少しました。

その他については、星山浄化センターでの下水処理量や衛生プラントでのし尿処理量が増加したことにより、前年度より温室効果ガス排出量が増加しました。



(3) 主要施設別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)(単位：t-CO₂)

施設名	二酸化炭素 (CO ₂)	メタン (CH ₄)	一酸化二窒素 (N ₂ O)	合計
清掃センター	8,016	1	458	8,475
市立病院	2,827	-	-	2,827
星山浄化センター	1,047	245	421	1,713
小学校23校	1,105	-	-	1,105
市役所	1,036	-	-	1,036
衛生プラント	928	50	12	990
中学校13校	870	-	-	870
学校給食センター	813	-	-	813
総合福祉会館	469	-	-	469
合計	17,111	296	891	18,298

※市の事務事業全体で排出された温室効果ガスは、国の法律に従い、CO₂の排出量に換算し、表記しています。

二酸化炭素は電気や燃料の使用、プラスチックごみの燃焼に伴って排出されます。プラスチックごみの燃焼からの排出量が多いことから清掃センターでの排出量が最も多く、次いで市立病院、星山浄化センターからの排出の順となっています。

メタンと一酸化二窒素はプラスチックごみの燃焼、下水及びし尿処理などに伴って排出されます。メタンについては、下水処理を行う星山浄化センター、し尿処理を行う衛生プラントからの排出が多くなっています。一酸化二窒素については、プラスチックごみを焼却する清掃センター、下水処理を行う星山浄化センターからの排出が多くなっています。

3 令和6年度取組結果

(1) 省エネ設備の導入

施設名称	導入設備
保健センター・救急医療センター	LED 照明
富士宮聖苑	LED 照明
星山浄化センター	LED 照明
市立病院(2・3・4階)	LED 照明
富士見小学校	LED 照明
芝川中学校	LED 照明
芝川公民館	空調設備の更新
柚野公民館	空調設備の更新

(2) 太陽光発電設備の導入

施設名称	設置容量	売電状況
市営万野住宅E棟	9.9kW	余剰売電
富士見小学校	62.15kW	PPA
芝川中学校	45.77kW	PPA

(3) 公用車の利用状況

車	台数
プラグインハイブリッド車(PHV)	2台
電気自動車(EV)	3台